

## 1 【活動の趣旨】

本学区は新興住宅と旧地区が混在した地域であり、これまでも各自治会や、学校とそれぞれ連携を取りながら、学習補助や地域の特性を活かした活動の実施など、様々な協力をいただいている。それらの活動は地域の方・子どもそれぞれにとって非常に有意義な活動であり、継続的に取り組む内容に併せて、子どもの実態に応じて弾力的に変更・修正を加え、計画・実施している。

## 2 【特徴的な活動内容】

今年度は例年行っていた様々な行事・活動が中止・規模縮小などの変更を強いられた。特に最も大きな行事の一つである「萩まつり」が中止となったことは、子どもや地域の方々にとって、非常に残念な出来事であった。そんな中、子どものために「何かできることを」という地域の方の思いを受け、学校と地域とが連携し、下記の取組を新たに実施した。



【全校：やきいもパーティ】

### ○ 「やきいもパーティ」

例年、1年生がさつまいもの栽培を行っている。今年度は学校の畑に加え、地域の畑で収穫したさつまいもを調理し、全校児童で食する機会を設けた。

開催にあたり、事前準備や当日の調理など、地域の方の協力を得て、盛大に実施することができた。やきいもを食した子どもたちは笑顔であふれ、お礼の言葉を伝えたり、手紙を書いたりするなど、自ら地域の方へ感謝する姿が見られた。

### ○ 「バルーンアート体験」

「萩まつり」で行っていた「バルーンアート」を2年生の学習活動の一環として実施した。当日の準備や指導など、地域の方の協力を得て、バルーンアートを十分に体験することができた。萩まつり用に準備していたバルーンを有効活用しつつ、地域の方と交流する機会を持つことができた。



【2年：バルーンアート】

## 3 【実施に当たっての工夫】

三密の回避等、基本的な感染防止対策はもちろんのこと、「コロナ禍だからできない」のではなく、「コロナ禍でもできること」を前向きに見出し、例年までの慣習にとらわれずに具体的な方策を検討することが大切である。

## 4 【事業の成果】

様々な活動が中止または制限された中でも地域の方は「子どもたちのためにできることを」という思いを強く持たれていることを再認識できた。そのような思いに応えるように、子どもたちも地域の方との活動を楽しむとともに、改めて地域の方々への感謝の気持ちや、地域のよさを感じるよい機会となった。

## 5 【事業実施上の課題】

コロナ禍にあった今年度は、事業内容や意義について、改めて検討し直すよい機会となった。今年度やむなく中止・縮小された活動を、今後再開・拡大するかについては、持続可能性や目的・意義を踏まえた上で、内容やあり方を再検討するとともに、「子どもにとって有意義であること」という本来の主旨に立ち返って、次年度計画を作成していきたい。